

◎今週の御言葉 「共に育つ場としての教会」(エペソ人への手紙 4 章 7 節～16 節) 「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです」(4:16) 仲森文穂

○パウロは、教会はキリストの体であり、私たちはそれに組み合わされていると言いました。

私たちは職業も違えば、年令も違います。若い方がいれば活気が出ますし、熟年の方がいれば重みが出ます。壮年の方がいれば頼もしく、気のいいご婦人がいれば楽しいです。子どもたちが集えば、教会に未来を感じます。一人一人がキリストと結ばれ、しかも一致して歩めるのが、教会のすばらしい所です。

エペソの教会では、様々な役職の人が立てられました。働き人が多いと教会も働きが多岐にわたり、成長も大きいでしょう。しかし、日本の教会では、牧師が一人というのが普通です。一人あるいはご夫妻で礼拝や集会の準備、印刷物はもちろん掃除まで、疲れも見せず働き、悩み相談や訪問、お見舞いなど時間を割くのを惜しみません。そんな牧師ご夫妻に報いるため、夏と冬に 1 週間ずつ休暇をあげてくださいね。

○さて、今日は礼拝後に、廣田先生の人工透析 40 年の感謝会が開かれます。開拓伝道を志された時、あと 10 年の命をささげたいと仰っていましたが、何と 40 年も守られました。神様のお恵みであり、また人工透析の効能ですね。それを感謝して、今日の会を持たれるのですが、とても良いことです。なぜなら、この感謝の時が節目になり、新たな思いで今日から出発されるからです。

また、来年は宣教開始 40 年を迎えます。どんな行事をするべきか、みんなで考えを出し合おうとされていますが、どんな案が出てくるか楽しみです。また今後の祈りの課題は、新来者が教会に来てくださることでしょうね。一人が一人をお連れすれば 2 倍になりますが、それは机上の計算のこと。そう簡単ではありません。でも、いつも言うことですが、伝道は神様のみ業です。時が来れば神様が人々を必ずお送りくださいます。私たちが今すべきことは、その時が来るよう心を日々新たにし、前に身体を伸ばして、祈り続けることです。愛と赦しの心を学び、共に育つ場である教会に今後も集い、感謝を以て恵みの分かち合いをして参りましょう。